

新たなインターチェンジを活用した福部町のまちづくりに関する調査報告

1 目的と概要

福部町内には、山陰近畿自動車道のインターチェンジ(以下、ICという)は1か所しかなく、地域として自動車道を十分に利用できない。鳥取砂丘周辺の観光振興、渋滞対策、周遊促進の強化など新たなまちづくりのためには福部IC～大谷ICの間に新たなICが必要である。

また、新たなICを活用して、福部町をより活力のある住みやすいまちづくりを進めることを目的とし、そのための諸調査を行い、課題・方向性を明らかにする。

2 実施方法

国立大学法人鳥取大学地域学部山下博樹研究室に委託して、町内の商業施設、交通網等の社会資源を把握し、現状調査の結果をもとに、地域の課題を考える。

また、鳥取市都市企画課や福部町地域振興会議と随時協議し、「鳥取市都市計画マスタープラン」との整合性を図りながら、福部町のまちづくりについて検討を行った。

3 調査結果

福部町は、総合支所や学校など公共施設をはじめとしたインフラがコンパクトに整備されている一方、日常生活のためのスーパーマーケットなどの店舗が不足している。そのため、高齢者等の交通弱者が買い物難民化するなどの問題も現れている。

鳥取砂丘は本市の一大観光地であり、観光シーズンには砂丘周辺は慢性的に渋滞している。現在の山陰近畿自動車道のICは湯山地区にあり、福部町中心部から約3km離れているため、その機能が十分に生かされていると言えない。

まちづくりの一つの起爆剤として、福部中心部により近い場所に新しいICを設置し、併せてその付近に道の駅等を設置することで、さまざまな課題の解決の一助になると考えられる。

以上の課題を克服するために取り組むポイントを考察し、今後の福部のまちづくりの方向性を示す「福部町のまちづくり構想」を策定した。(以下、取り組むポイント)

① 【福部中心部の中心機能の充実】

店舗を支所～国道9号間に誘致。JR福部駅の利活用(住民交流スペースとして)

② 【山陰近畿自動車道の新ICの設置】

山陰近畿自動車道と市道の交差する付近に設置。防災上、県東側へのバイパスとして有効。

③ 【新IC付近への道の駅等の設置】

観光客や近隣住民を対象に地元農産物を販売。

④ 【新たな道の駅等と福部町中心部の中心機能の関係】

道の駅等にスーパーマーケットやガソリンスタンドを併設。

⑤ 【町内移動手段の改善】

町内循環バス(らっちゃんバス)の運行内容の改善(運行日時、ルート)

⑥ 【塩見川の治水対策の強化】

河川改修工事や内水排除対策の取り組み強化。

⑦ 【居住促進の取り組み】

日常生活環境の改善により住宅(人口)増加。

4 今後の取り組み

本構想は、今後の福部町のまちづくりの大まかな方向性を示しているが、具体的な計画や取り組みについては、地域振興会議やまちづくり協議会等を中心として、住民の活発な意見や議論を踏まえて、検討していく。